

| | | | | | | | |
|--------|--|---------------------|---------------------------|--------------------|--------------------|---------------------|--|
| 学校教育目標 | 家庭、地域、社会で豊かな生活ができるように ○わかって動ける力を身につけます。 (知) ⇒ 知識・技能 ○適切なコミュニケーション力を身につけます。 (徳、公、開) ⇒ 思考力・判断力・表現力 ○心身ともに健康・安全に生活する力を身につけます。 (体) ・学校教育目標を達成するための学習の中で、学びに向かう力・人間性等を育成します。 ・学校教育目標を達成するために各学部において重点目標を設定し、児童生徒の実態に合わせた学習を行います。 | | | | | | |
| | 創立 44 周年 児童・生徒数: 183 人 | 学校長 中嶋浩一 幼稚園部: 人 | 副校長 金井大・坂本征之 小学部: 81 人 | 2 学期制 中学部: 46 人 | 指定地域等 高等部: 56 人 | 栄区、戸塚区、泉区 専攻科: 人 | |

| |
|---|
| 教育課程全体で 育成を目指す資質・能力 |
| わかって動ける力 適切なコミュニケーション力 心身ともに健康・安全に生活する力 |

| |
|---|
| 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「12年間で育てる子ども像」と具体的取組 |
| 家庭、地域、社会で豊かな生活ができるように ○自ら考え行動できる人 ○自らコミュニケーションをとって、社会や地域とかかわる人 ○自ら体を動かし健康・安全に生活できる人を育てます。 令和5年度の具体的取組 ・GIGAスクール構想を推進し、学習活動の充実を図るため、ICT教育について実態に応じた指導内容を検討する。 ・学校教育目標や学部重点目標などを基にした授業づくりに取り組み、計画的な授業実践を行う。 |

| | |
|--------|---|
| 中期取組目標 | A適切な指導 ・学校教育目標や学部重点目標などを基にした授業づくりに取り組み、計画的な授業実践を行います。 ・GIGAスクール構想を推進し、学習活動の充実を図るため、ICT教育について実態に応じた指導内容を検討します。 |
| | B効率的な組織運営 ・グループウェアやオンライン会議等の活用、働き方改革の視点等から、効率的な組織運営を図ります。 |
| | C安全な教育環境 ・安心して学習に取り組めるように、様々な想定に対応した安全管理の徹底を図ります。 |

| 重点取組分野 | 具体的取組 | | | | |
|--|-----------------|-------|----|-----------------|--|
| <table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">知</td> <td>確かな学力</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>教育課程推進部、教育研究部</td> </tr> </table> | 知 | 確かな学力 | 担当 | 教育課程推進部、教育研究部 | ①定期的に実施するカリマネ会議において、児童生徒の実態や特性、段階等を踏まえ、観点別に立てた目標を振り返る、授業改善を行う。②学習活動の充実を図るため、実態に応じた指導内容を検討する。指導案にタブレット端末の活用を明記し、実践事例を共有するとともに、ICT活用に関する研修の企画、運営を行う。 |
| 知 | 確かな学力 | | | | |
| 担当 | 教育課程推進部、教育研究部 | | | | |
| <table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">徳</td> <td>交流教育</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>人権・交流教育部</td> </tr> </table> | 徳 | 交流教育 | 担当 | 人権・交流教育部 | ①小学部と中学部において副学籍交流が円滑にすすむよう、取りまとめを行っていく。②学校間交流がより実りのある内容となるよう各学部、相手校と連携し、計画的・継続的な取組となるよう協議しながらすすめていく。 |
| 徳 | 交流教育 | | | | |
| 担当 | 人権・交流教育部 | | | | |
| <table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">体</td> <td>健やかな体</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>体育、保健体育・保健部・給食部</td> </tr> </table> | 体 | 健やかな体 | 担当 | 体育、保健体育・保健部・給食部 | ①一人ひとりの子どもの実態に合わせた「体力づくり」に取り組む。②健康状態の把握に努め、感染症等の予防や拡大防止に取り組む。③給食だよりやばくばく通信、献立表で健康に良い食事や食育についての情報提供をし、食育にかかわる行事を行い、その取組の様子を伝える。 |
| 体 | 健やかな体 | | | | |
| 担当 | 体育、保健体育・保健部・給食部 | | | | |
| <table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">公開</td> <td>地域連携</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>地域支援部</td> </tr> </table> | 公開 | 地域連携 | 担当 | 地域支援部 | ①地域主催のイベントでの作品販売や屋上プール開放などを通して、本校の児童生徒の学習活動や様子について地域へ発信する。②学校施設開放利用団体の公平性を保ち、本校卒業生を含めた余暇活動に貢献する。 |
| 公開 | 地域連携 | | | | |
| 担当 | 地域支援部 | | | | |
| <table border="1"> <tr> <td colspan="2">いじめへの対応</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>いじめ防止対策委</td> </tr> </table> | いじめへの対応 | | 担当 | いじめ防止対策委 | ①毎月「いじめ防止対策委員会」を開催し、いじめの未然防止、早期発見と早期対応、適切な対処や措置にあたる。必要であれば警察などの関係機関とも連携する。②子どもの人権を守る、権利を尊重する観点から、研修に取り組み、教職員の人権意識向上を図っていく。 |
| いじめへの対応 | | | | | |
| 担当 | いじめ防止対策委 | | | | |
| <table border="1"> <tr> <td colspan="2">人材育成・組織運営(働き方)</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>教務部</td> </tr> </table> | 人材育成・組織運営(働き方) | | 担当 | 教務部 | ①メンター研修の自律的取組や年次研取組を継続し、専門性の向上を図る。②グループウェア会議やICT機器を活用した会議を行い、時間短縮を図りながら、効率的な組織運営を目指す。 |
| 人材育成・組織運営(働き方) | | | | | |
| 担当 | 教務部 | | | | |
| <table border="1"> <tr> <td colspan="2">センター的機能の取組</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>特別支援教育コーディネーター</td> </tr> </table> | センター的機能の取組 | | 担当 | 特別支援教育コーディネーター | ①地域の小中学校等への訪問支援や研修協力量、学校支援の充実を図る。また、特別支援教育の専門性を広め、深める役割を果たしていく。②地域の関係諸機関との連携を通して、地域における障害児者理解促進や日常生活における充実性の向上に寄与する。 |
| センター的機能の取組 | | | | | |
| 担当 | 特別支援教育コーディネーター | | | | |
| <table border="1"> <tr> <td colspan="2">安全管理</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>防災安全・生活安全部</td> </tr> </table> | 安全管理 | | 担当 | 防災安全・生活安全部 | ①防災計画に基づき避難訓練等を実施する。引き取り訓練において必要な情報を精査し書式を整える。また、計画に基づいて災害時用物資の管理等を行う。②日頃から安全意識を高め、全教員の共通理解のもと、連携を図りながら各自が様々な状況の中で適切な行動に結びつけられるようにする。 |
| 安全管理 | | | | | |
| 担当 | 防災安全・生活安全部 | | | | |
| <table border="1"> <tr> <td colspan="2">地域学校協働活動</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>学校運営協議会事務局</td> </tr> </table> | 地域学校協働活動 | | 担当 | 学校運営協議会事務局 | ①学校周辺地域の方に本校への理解を深めていただくための情報発信を行うとともに、積極的に学校ホームページを活用していく。②学校運営協議会の委員による授業や行事の参観の機会を設け、学校関係者評価としての助言をいただき、より良い学校づくりに取り組んでいく。 |
| 地域学校協働活動 | | | | | |
| 担当 | 学校運営協議会事務局 | | | | |
| <table border="1"> <tr> <td colspan="2">担当</td> </tr> </table> | 担当 | | | | |
| 担当 | | | | | |

| 学校教育目標 | |
|---|---|
| 家庭、地域、社会で豊かな生活ができるように ○わかって動ける力を身につけます。 (知) ⇒ 知識・技能 ○適切なコミュニケーション力を身につけます。 (徳、公、関) ⇒ 思考力・判断力・表現力 ○心身ともに健康・安全に生活する力を身につけます。 (体) ・学校教育目標を達成するための学習の中で、学びに向かう力・人間性等を育成します。 ・学校教育目標を達成するために各学部において重点目標を設定し、児童生徒の実態に合わせた学習を行います。 | |
| 教育課程全体で 育成を目指す資質・能力 | |
| わかって動ける力 適切なコミュニケーション力 心身ともに健康・安全に生活する力 | 具体化した資質・能力 ○自ら考え行動できる ○自らコミュニケーションをとって、社会や地域とかがわる ○自ら体を動かし健康・安全に生活できる |
| 中期取組目標 | |
| A適切な指導 ・学校教育目標や学部重点目標などを基にした授業づくりに取り組み、計画的な授業実践を行います。 ・GIGAスクール構想を推進し、学習活動の充実を図るため、ICT教育について実態に応じた指導内容を検討します。 B効率的な組織運営 ・グループウェアやオンライン会議等の活用、働き方改革の視点等から、効率的な組織運営を図ります。 C安全な教育環境 ・安心して学習に取り組めるように、様々な想定に対応した安全管理の徹底を図ります。 | |

学力向上アクションプラン

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|--|--|
| 確かな学力 | ①定期的に実施するカリマネ会議において、児童生徒の実態や特性、段階等を踏まえ、観点別に立てた目標を振り返る、授業改善を行う。②学習活動の充実を図るため、実態に応じた指導内容を検討する。指導案にタブレット端末の活用を明記し、実践事例を共有するとともに、ICT活用に関する研修の企画、運営を行う。 |
| 担当 教育課程推進部、教育研究部 | |
| 学力向上に関わる本校の状況 | |
| <学校教育活動アンケート(保護者・教職員)の「確かな学力」の結果から> 「満足できる」「やや満足できる」の2つを合わせた回答が95%を占め、昨年度の90%を上回った。教職員アンケートでは、「十分達成」「概ね達成」を合わせた回答が87%だった。 自由記述欄では、保護者の方より「文字の興味が広がり平仮名をかなり覚えました」「自信をもって、大きな声で発言できるようになりました」という声をいただいた。ICTを活用した教育については「タブレットを使った学習は、息子には合っているようです」というご意見のある一方で「タブレット使用した学習を取り入れて欲しいです」「障害を持った人ほどICTは必要だと思いません。支援学校ではどのような状況にあるのかよくわかりません」とのご意見をいただいた。 <考察> 結果から保護者95%、教職員も達成度は87%と高く、今後も引き続き、指導支援方法や授業内容の改善に努めながら、一人ひとりに「確かな学力」が身につくように取り組んでいきたい。ICT機器の活用については、今後、「児童生徒の実態に合わせて有効活用し、個々の学びの充実につなげていけるよう、保護者と情報共有をしながら進めていきたい。 | |
| 今年度の目標 | |
| ・観点別目標の振り返りを中心に学習活動のPDCAサイクルを行い、指導の充実を図る。 ・ICTを効果的に活用した教育について理解を深め、実践事例の共有を図る。 | |
| 目標を実現するための具体的行動プラン | |
| 通年の取組として ・カリマネ会議を定期的に設け、観点別の目標の振り返りを中心にPDCAサイクルを行うことで指導や授業の充実を図る。 ・タブレット端末を使用した活動実践をして職員間で共有するとともに、学習の中でICT機器の効果的な活用に関する研修を行う。 ・日々の生活や授業で児童生徒の実態に応じたよりよい指導が行われるよう、校内研修や「教材を見合う研修」の企画・運営を行う。 | 上半期 下半期 |
| 上半期と同じ(通年の取組) | |

豊かな心の育成推進プラン

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|--|--|
| 交流教育 | ①小学部と中学部において副学籍交流が円滑にすすむよう、取りまとめを行っていく。②学校間交流がより実りのある内容となるよう各学部、相手校と連携し、計画的・継続的な取組となるよう協議しながらすすめていく。 |
| 担当 人権・交流教育部 | |
| 豊かな心に関わる本校の状況 | |
| <学校教育活動アンケート(保護者・教職員)の「交流教育」の結果から> 「満足できる」「やや満足できる」の2つを合わせた回答が72%で、昨年度の53%から19ポイント上昇した。「わからない」と回答した方は昨年度41%だったが、今年度は23%だった。教職員アンケートでは、「十分達成」「概ね達成」を合わせた回答が87%だった。 自由記述欄では、保護者の方より「コロナが流行る中なかなか交流は難しい中たくさんのお試みありがとうございます」「現在、副学籍交流を行っています。又機会があればぜひ交流を持ちたいです」「副学籍交流を希望していないため分かりません」という声をいただいた。教職員からは「副学籍交流など、感染状況や相手校と相談して交流教育を行うことができていることがよかった」「学校間交流については、まだまだ実施は難しいが、本校の生徒たちにとって外部の同級生と関わる貴重な機会なので、相手校と連絡を取り合い、実施の準備は続けていってほしい」との意見があった。 <考察> 結果より保護者72%、教職員も達成度は87%となり昨年度よりも高くなった。コロナ禍でも実施できるよう相手校との連絡を密にとりながら、感染症対策をとり交流方法を工夫することで直接交流の場を少しずつ増やすことができた。今後は、副学籍交流、学校間交流について保護者の皆様に情報発信を行い、また児童生徒にとって心を豊かにする交流教育の取組を検討しすすめていきたい。 | |
| 今年度の目標 | |
| ・副学籍交流を円滑にすすめる。 ・学校間交流が、より実りのある内容で計画的・継続的に進める。また、感染症対策をとりながら直接交流に向けての協議を行う。 | |
| 目標を実現するための具体的行動プラン | |
| 通年の取組として ・小・中・高児童生徒が居住地の小学校や中学校に行き一緒に学習する副学籍交流では、授業や行事などに参加して交流することによって地域社会との距離がより近いものとなるようにする。 ・近隣の学校との学校間交流では、小学部は本郷台小学校、本郷小学校個別支援学級、中学部は本郷中学校、高等部は横浜栄高校との交流をすすめる。 ・感染症対策を行いながらの直接的な交流や、絵や手紙や歌などを通しての間接的な交流をすすめる。 | 上半期 下半期 |
| 上半期と同じ(通年の取組) | |

健やかな体の育成プラン

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|---|--|
| 健やかな体 | ①一人ひとりの子どもの実態に合わせた「体力づくり」に取り組む。②健康状態の把握に努め、感染症等の予防や拡大防止に取り組む。③給食だよりやばくばく通信、献立表で健康に良い食事や食育についての情報提供をし、食育にかかわる行事を行い、その取組の様子を伝える。 |
| 担当 体育・保健体育・保健部・給食部 | |
| 健やかな体に関わる本校の状況 | |
| <学校教育活動アンケート(保護者・教職員)の「健やかな体」の結果から> 「満足できる」「やや満足できる」の2つを合わせた回答が99%と昨年度の97%同様、保護者アンケートの中で最も良い結果となった。教職員アンケートでは、「十分達成」「概ね達成」を合わせた回答が85%だった。 自由記述欄では、保護者の方より「子供の話からもよく運動しているのかなと思います」「体も強くなり歩ける距離が伸びました」などの声をいただいた。教職員からは「児童生徒数に対して校庭や体育館の遊具が足りないと思う」「給食配膳中の待ち時間等に児童生徒がタブレット端末で今日の給食等、食育について学び視覚できる活動を取り入れたい」との意見があった。 <考察> 感染症予防・熱中症予防については、子どもたちの日々の健康観察を丁寧に行いながら、今年度も必要に応じて横浜市の「管理衛生マニュアル」に沿って対応を行っている。4月より再び給食の提供ができ、各学部の実態に合わせて食材にふれる体験を昨年度よりも多く実施することができた。引き続き、体力作りや食育指導、感染症予防にしっかり取り組み、子どもたちが元氣よく安心して登校できるようにしたい。 | |
| 今年度の目標 | |
| ・実態に合わせた「体力づくり」に取り組む。 ・感染症等の予防や拡大防止に取り組む。 ・食育にかかわる行事に取り組む、その様子や食育に関する情報を発信する。 | |
| 目標を実現するための具体的行動プラン | |
| 通年の取組として ・心肺機能の向上を目指し、時間や距離を設定しての歩行やランニング等の有酸素運動に年間を通して継続的に取り組む。また、安定した歩行や走行を身につけるために実態に合わせて場や時間を工夫し、筋力の保持増進に取り組む。 ・感染症に関して日々の手洗いの励行を強化し、手洗いを意識する取組を行う。また、職員への嘔吐物処理研修や校内消毒等で、様々な感染症の予防や拡大防止に取り組む。熱中症予防の取組みとして、運動指針の判断基準の掲示やコンディション放送を行い、注意喚起を行う。 ・良い食事や食育についての情報提供を行う。また、食育にかかわる行事や食材体験を実施し、取組の様子を発信する。 | 上半期 下半期 |
| 上半期と同じ(通年の取組) | |